

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 15 日

所属	会計ファイナンス 研究科	職名	教授	氏名	石黒秀明
研究課題	最新税務訴訟事件判決の分析と判例理論の研究				
研究キーワード	租税法、判例研究、判例 理論、統計学	当年度計画に対す る達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連する SDGs項目	10. 人や国の不平等をな くそう	16. 平和と公正をすべて の人に	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>これまで自身の学術テーマにつき、租税法における解釈論研究の展開を目的として、最新の税務訴訟事件判決を収集し分析するとともに、適時に抽出した個別具体的な個別テーマについて、先行研究の成果および既出の判決と併せて分析することで、裁判所による判例理論の導出・解明を行ってきた。</p> <p>本年度は、①馬券購入に伴う払戻金の所得区分が争われた一連のいわゆる「外れ馬券訴訟」や②法人税法上損金不算入の取り扱いをめぐる争われた「不相当に高額な役員給与」に係る訴訟を「重点研究テーマ」として、新たに発生する同様の訴訟事件の課税要件事実を対象に統計学的検証を行うべく研究を進めた。また、これに加え、③相続税における財産評価基本通達の「取引相場のない株式」の評価方式、特に「類似業種批准方式」の妥当性を統計学的に検証すべく、先行論文の研究を行った。</p> <p>さらに、東京税理士会会員相談室相談委員（国際課税担当）として、1年間を通してさまざまな国際課税事案の収集と分析を行った。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>税務相談室相談事例（国際課税）、石黒秀明、単著、東京税理士界 Vol.No.807、p8、2023 年 3 月投稿</p> <p>【学会発表等】</p> <p>最高裁上告始末記－高松外れ馬券訴訟の科学的検証－、石黒秀明、日本税務会計学会・月次研究会、2023 年 5 月 24 日、東京税理士会館</p> <p>3. 主な経費</p> <p>統計解析ソフト（SPSS 29 Standard、Neural Network、Amos 29）購入費用 判例データベース使用料および書籍購入費用。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p style="text-align: right;">（本文は <u>2 ページ以内</u> にまとめること）</p>					